

といちくだよい

1
月号
January

発行責任者 / 鎌谷 一也 編集責任者 / 西村 京二 2010(平成22年) 1月号 鳥取県畜産農業協同組合



12月11日実施の若葉台小学校もちつきの様子

年頭にあたり

代表理事組合長 鎌谷一也

明けましておめでとございませう。新年を迎え、ご家族皆様
が健やかに、良き年となることを心より祈念申し上げます。
ここ数年、何が発生してもおかしくない情勢、命がけの時代、
大転換期の農業畜産情勢であると、年頭のあいさつを行ってき
ましたが、どうでしょうか。

予測を上回る変化ではないでしょうか。そして、昨年が一番
大きな変化は政権交代です。経済情勢は政治に反映しますが、
経済や社会の仕組み含めて、政治、政策の変化は今後に大きな
影響を与えます。

また、鳥畜にとっても、今年は設立30周年にあたる節目の
年です。産直運動40周年、交流協会設立20周年、そして循
環型農業畜産産業を明確に位置づけ取り組んできて10年目でも
あります。

今年第2次中期5カ年計画を策定する予定ですが、今後の
方向を見据えていくため、少し、全体的な情勢にふれながら、
年頭の挨拶とします。

歴史的な転換期にある日本農業 農村 農政

危機の状況から、新たな仕組みを革命的に創り出す歴史的
な局面といっても過言ではありません。

恐慌とも言いうる経済情勢、政権交代、世代交代、世界の勢
力分布の変動、環境や気象問題、情報のグローバル化、思想と
生活のあり方の転換など、あらゆるものが激動し、問われてい
る今日です。

1 政権の交代をどう捉えればよいか。 国民 農民の反撃

衆議院議員総選挙は、民主党の大勝利でした。新自由主義と
格差社会の拡大への批判ばかりでなく、農村 農民も「自民党へ
完全に愛想をつかした」結果となりました。

「マニフェスト選挙」といわれましたが、今回の結果は、国民・
農民一人ひとりが、意思を示す、少なくとも選挙においては強
い決定権をもつ、という意識の変化の表れでなかったかと思
います。各分野の情勢が厳しく、将来の見通しが不安だからこ
そ、国民主権、住民主権、農民主権の流れが始まる胎動を感
じさせられる、まさにあらゆる分野での転換期の選挙、新た
な始まりの選挙でなかったかと思えます。

では、なぜそのようなのか。その背景には、本当に崖っぷちの農
業 農村現場の実態があります。

次ページへ

(前ページより)

2 農村農業 農家の実態：

金融危機からはじまった経済危機は、百年に一度の危機、「恐慌」とすら言われました。しかし、農業農村の状況はどうでしょうか。

① 農林業 農村の担い手は：

農業従事者の中心は、数10年間、昭和1桁世代です。高齢化の中で、生産基盤どころか農村機能の維持においても、まったなしの状況に置かれています。ここ数年間で昭和1桁世代のリタイアが増加すれば、農地の保全部はどうなるでしょうか。鳥獣被害の拡大、耕作放棄地の増大にも見られるように危機的な状況にあります。林業についても、間伐などの整備も進まず、集中的豪雨の中で、水田ばかりでなく人命すら危険に晒す場合が多くなっています。

また、認定農業者制度および集落営農を含めた農業生産法人の育成についても、取り組まれています。米価の下落など、農畜物価格の不安定な状況の中で、専業農家ほど経営難に直面するといった局面に至っています。農村や農業の守り手がいなくなれば、どんな生産条件や政策があるかと無駄になります。

② 農業経営や所得は：

5年前と比較して米も畜産物も大きく所得減少しています。生産性の向上でカバーできるどころの話ではありません。また、水田での経営所得安定対策においても、専門的な担い手が決して従来より優遇されている実態にはありませんでした。

とりわけ、消費低迷による乳価の下落、生産調整、そして飼料の高騰と数年間にわたって酪農畜産経営は深刻化してきました。そして、一昨年にいたっては穀物高騰による畜産全般の危機、石油や資材原料の高騰、農薬、肥料の高騰など、耕種果樹を含め、あらゆる分野での経営が悪化してきました。

③ 一層厳しさを増す農業：

中国冷凍キョーザ事件、輸入食料に対する安全性の不安、世界的な穀物や石油高騰、輸入食料の確保難、買い負け、そして食料自給率40%という実態の中で、一昨年の前半は、急速に国内農畜産物への関心は高まり、また国内自給率への消費者の関心も高まりました。

しかし、アメリカの金融危機に端を発した世界的な経済危機は国内の経済や国民の生活にも大きな影響を与え、百年に一度といわれるような国民生活の危機的状況をもたらしました。

結果、国内農業については、一段と厳しい環境に陥っています。

消費者の、より低価格化を求める傾向とともに、消費を切り詰める消費環境の中で、再生産どころか、借金による経営維持がやっとという農家も増加しています。

3 酪農 畜産情勢は：

円高が進んだといっても、乳用配合飼料価格は高騰前の[※]43円の時代から、ビーク67円を経て56.5円(21年9月)と、まだ半分しか値下がりしていない状況です。そして、昨年春の10円の値上げ以降、全国的には、牛乳の消費が20%減少し調整牛乳が急増するなど、家計の圧迫と消費低迷の中で、手取り乳価はやはり厳しい環境におかれています。

また、肥育や繁殖も同様に厳しい環境にあります。肥育は、マルキン事業、特別マルキン、そしてステップアップの17000円/1頭補填と、1頭5.7万円の補填があつて、やっと生産費が賄える状態であり、補填がなくなればどうなるのか。そして、牛や農家の事故があつた場合の対応や借金の返済など、非常な不安定要素を抱えての経営に陥っています。

一 全体的な流れはどうなるか

米の戸別所得補償制度が難産の末、スタートしました。その流れをしっかりと押さえておく必要があります。

新政権の農政の特徴は、農家の所得補償をおこなうという点もありますが、最大のポイントは、世界の経済・食料情勢を踏まえ、最も重要な柱として自給率の向上に置いている点です。農家の所得政策はその手段です。ありま

その自給率向上という点を踏まえ、た所得政策ですが、今年の米から始まり、畜産 酪農の戸別所得補償制度をどう確立していくか、その中で自給率をどう高めるかが焦点となります。

とくに、今年の春の酪農畜産対策では、平成23年実施に向けたモデルとしてどこまで、考え方を整理させるかが重要となります。

(酪農では、生乳やブル乳価を含めた価格補償制度。畜産では、牛肉、豚肉、鶏肉等の安定供給が可能な価格対策、ただし、地域での耕畜連携の推進および、家族農業の確保、有機畜産や日本型畜産の推進などを考慮した加算制度の検討など。)

次ページへ

（前ページより）

1 水田利活用自給力向上事業をしっかりと利用しよう！

主食米並みの所得を補償するため、飼料米 資料稲が8万円/10a、飼料作物が35千円/10aとなります。

とくに、飼料稲については、給与実証や資源循環も引き続き対象となります。

飼料米については、専用種でなくとも、日本晴などの対応により、十分可能です。現在、鳥取県や農協に対して、1000haの作付目標の取組みをしっかりと働きかけています。

政策の転換にあわせ、畜産や水田の有り様、生産者の意識の転換、消費者の意識の大転換を今後の大きな方向にすべきです。畜産サイドも、配合飼料の1割は飼料米を使うぐらいの姿勢が必要です。全国で穀物2500万トンの1割は250万トン。主食用の米の目標数量が800万トンのため、かなりの水田の活用が可能。トリチクでは、粗飼料をすべて飼料稲に切り替え、かつ配合飼料の1割を飼料米にすれば、飼料稲150ha、飼料米100haが可能となります。同様に、県下の牛豚・ブリーダー・鶏卵さらに、乳牛に利用すれば、県下全体での作付は十分可能です。

*200～300円が農家手取り、畜産サイドで3300円/35ha程度での供給でどうにかと考えています。

2 自給率向上対策現場の改革は生産者・消費者共同の課題

いずれにしても、生産者自体の取組み、現場としての取組みとして、大胆な取組みが必要です。また、消費者や生協の皆さんにも、飼料米シリーズの牛豚・鳥牛乳といった形で、優先的に食べる運動を働きかけたいものです。中国山地に連なる水田農村を守る生協事業連合「自給率の向上と環境保全に貢献する生協消費者者」など、生産者・消費者が連携して変えていく必要があります。

なお、今年の補助事業では、「その他作物」や「麦大豆と飼料作物」が調整弁となっていますので、県レベルで「ト」などの従来の交付金水準を下回らせない取組みが重要です。その他、裏作での飼料用作物（15000/10a）の取組みも重要です。

自給飼料の確保を強めることによる「ト」の削減やその利用を前提とした畜産のあり方も今後の課題となります。

トリチクの取組みは…

中期計画の策定を1年伸ばし、今年の30周年を機に、策定しスタートを切る予定としています。

政権も変わる一方で、デフレスパイラルなどの経済情勢、一方で問われる新たな価値感・方向性など、1年前とは大きく変化し、ある程度共通認識がもてるようになってきています。

以下は、昨年のあいさつと同様ですが、より厳しい環境の中で、いかに実践するかです。

昨年末、職員の営業推進では、役員で1千万円以上の実績をあげ、目標を大きく上回る結果となりました。経営環境は厳しいものの、今回の職員の取組みは「宝」です。一人10万円以上の実績は、やる気ややり方によって結果が出せることを物語っています。いかに責任と自信、誇りを持つて取り組むか、全員でチャレンジしたいと思えます。課題は、たくさんあります。しかし、職員のほかに、多くの宝があります。生産から、製造、販売までの一貫体制を確立していること。直売拠点を多く持っていること。生産から販売までの190220000を取得していること。

生協や地元消費者との交流、密着した営業を展開していること。そして、惣菜から、加工商品の開発。グループである東伯ミート、株式会社美歎牧場、東部コトトラ。さらには、畜産のネットワークとして、大乳、総合農協、飼料稲を通じた地域の農業者との連携。拠点としての美歎牧場やフレッシパークなど。多くの宝を持っています。

役員が、団結し一体となって、これらをどう生かしていくかが課題です。

1 当面としての、今年とは…

今年も昨年と同様、従来の延長上で考えるべきでない、変動の年になるではないかと思えます。

何が起るかわからないというよりも、どういう時代にするかが、より強く問われてくる情勢です。従来の価値感や情性、しがらみに、捉われず、改めて、人間や社会、企業や職場、食や農村社会にとって何が必要か、その価値感が問われる年となると思えます。

怒り悲しみと緊張感、怒りは原動力です。批判する力は変える力です。建設的な、積極的な批判力を養い、行動し、また考え行動する。

（次ページ）

(前ページより)

ただ、情勢が悪くなると、悪いことが重なるように、負の連鎖、悪循環に陥りがちです。事業や企業活動は、外部的な事業活動や要因、さらには内部的な事業、業務人的な関係など、より密接に絡み合っているため、それぞれの問題の要因と対策をキチント整理し、負の連鎖を起さないように、気をつけなければと考えています。

2 徹底したコストダウンによる販売を、三割削減を目指すライフスタイルを

餌の高騰は一段落するものの、将来にわたり経営を維持継続する上で、またコストダウンする上で、やはり自給粗飼料の生産体制の強化・確立は焦眉の課題です。

とりわけ、皆で汗を流し、コストダウン→直接出る経費を削減する→をどう図っていくか、が大切です。

とくに、農畜産物の販売状況を展望すると、基本的には、売れていくから、消費者に食って頂いてこそ、生産が持続できるという視点を、重視しなければならぬ情勢です。そのため、生産現場だけでなく、製造加工部門、販売管理部門、あらゆる分野でのコストの削減、ロスの削減が大切となります。

消費者の皆さんへ、食べ続ける上で、生産者への理解と支持が必要、連携の強化が大切」と取り組みを強化する必要もあります。しかし、全体的には、厳しい経済環境を反映し、一層のコストのダウン、低価格化が求められる時代となってきました。

賢沢な消費者であれば、より付加価値の高いものを追求して消費を求め、かつ食えること、安定して食べられること、が求められるそうです。

そうなること、生産者も、経営の持続を前提としつつ、より安価で安心できるものを提供する責任が問われてきます。

また、生産者や職員も生活者です。一〇年ほど前に「3割支出を削減するくらいのか感覚で」と言っていました。これが、これからの生活スタイルとして、実際15%を削減し、残りの15%は、自分達の汗と知恵でカバーするくらいのスタンスが求められてくるかもしれません。

新たなステージの始まり…

先の触れたように、今年も、鳥畜・産直提携活動も大きな節目の年で、す。

昨年末、設立30周年を祝福して、くられるかのように畜産大賞の受賞決定のしらせが届きました。

この賞は、畜産分野で、経営部門、地域振興部門、研究部門それぞれの最優秀賞を選び、最後に、その3部門の最優秀賞の中で、一つ大賞を選ぶもので、日本の畜産界全体の中で一つ選ばれるものですから、非常に栄誉あるものです。

これまで、トリチクが東畜として設立した当初から、美敷牧場や津ノ井を拠点として地域に支えられてきた取組みを地道に展開してきたこと、先輩諸氏の並々ならぬ取組みの経過が評価されたこと、さらに21世紀を前に、新工場の設立と交流拠点としてフレッシュパーク若葉台をオープンしたこと、不断に、地域での肥育牛の生産体制の拡大や安全な牛肉の供給体制の確立に取り組んできたこと、さらには、県内各地域での直売店舗の展開や生協や地域の消費者との交流などの取組み、また持続可能な畜産として飼料稲、食品副産物などを利用した牛づくりと循環型農畜産業の取組みなど、これまでのトリチクの事業活動が評価されたものと率直に喜びたいと思います。

地域や関係機関、消費者の支持支援があつてのもですが、何よりも、これまでの先輩や組合員の結集と取組み、職員取組みがあつてこそと、心より感謝し祝いたいと思います。

しかし、本番はこれからです。先的情勢でもふれたように、飼料稲から、飼料米を含めた自給飼料増産体制の確立、食文化ともいっべき食べ方の提案、地域の畜産や消費者に真に心えらるべき、取組みはこれからが大切です。

百年計画の10年というひと区切りが終わり、つぎの10年という新たなステージをどうするか、これからが本番です。

組合員、職員、そしてパートナーである地域の消費者や生協組合員と一緒に、どういった取組みにしていこうか、大切な年になると思います。

最後になりましたが、今年がよりよい年でありますように、また、皆様のご健康を心よりお祈りし年頭のあいさつとします。

自らの手で

代表理事専務 西村 京一

明けましておめでとございませう。組合員の皆様には、年末の販売促進につきまして大変ご無理をお願いし申し訳ございませんでした。ご心配をお掛けしましたことをお詫び申し上げますとともに、まずいってお礼を申し上げます。なお、この結果につきましては別途おつなぎしたいと存じます。

さて、御了知のとおり本年は組合創立以来三十周年目という節目の年です。さらに京都生協との牛乳産直四十周年、COOP牛乳産直交流協会設立二十周年と、大きな節目が三つも重なります。

年を通じた地元、京都への販売活動、各種イベントの実施、とりわけこれまで考えていたのですが実行できなかった、組合員並びに「家族の皆様と職員との交流事業を絶対に実施したい」と思いプロジェクトにより検討を行っています。

今年の経済状況がどうなるのかわかりませんが、自らの取組みで活況を作り、たとえ逆風であつてもしっかりと前に進みたいと思ひます。

*「寅は「苞」いん、動くの意味）で、春が来て草木が生ずる状態を表しているとき、後に覚えやすくするために動物の虎が割り当てられたそうです。早く「春」が来てほしいものです。

年頭の挨拶

常務理事 橋本 幸雄

新年 あけまして おめでとございませう。

本年も よろしく お願いいたします。飼料価格の高どまり、それに加え乳肉商品の消費低迷、明るい兆しが未だに見えない状況が続いている中、新年そして鳥畜設立30周年の年が明けました。

本年は40周年に向けての新たな「出発の年」と位置つけて、ISOの基中の基本である5S特に「躰け」の徹底と厳しい現状に怯むことなく、「畜産大賞」の受賞を機に2000年からの取り組みで蓄積したノウハウをより一層生産現場（乳肉同源乳肉複合経営）、耕畜連携に生かす、消費者に向かつては30周年記念の取り組みを通して情報発信を行い、鳥畜の肉の価値を理解してもらい「新しい鳥畜ファン」を増やしていきたいと思ひます。

2010年新年にあたり

営業部 製造部 統括マネージャー 二丹 路雄

2010年新年にあたり鳥取県畜産は産直30周年を迎えます。

記念すべき年にあたり今後鳥取県畜産が過去行ってきた取組が真に問われる年になると思ひますし、飛躍の年になると思ひます。

産直を行ってきた意味、地産地消の意味、飼料米、飼料稲の意味、休耕田、放棄地言つたれば時給自足による安心安全なお肉をいかに消費者に提供していくか。

農地法が変わり今後大企業が休耕田や放棄地を購入しやすくなり土地の購入が活発になって、資本力のある企業が参入し地元企業が淘汰されるかも恐れませう。これは私の個人的な推測です。その事により飼料稲や飼料米の確保がより重要になるでしょう。

2008年アメリカの金融崩壊により日本に与えた物は、デフレ、リストラ、就職難、減給、ボーナスカット、企業の海外流失、ホームレスの増加、愛知では今でもホームレスが増加しているそうです。

2010年は鳥取県畜産が行ってきた取組を再度一人一人しっかりと理解し、いかなる環境の中でも、生き残っていかねばなりません。そのためには一人一人が経営者の目線で仕事に取組み、日々現場で起こる出来事に対してしっかりと話し合い、打開して実践していく事を繰り返して日々業務を進化していかなければなりません。現状のままで良いと言つて安住していれば、いつか大手企業に市場を奪われ、気がついたときには既に打つ手が無いと言つ事になっていると思ひます。それほど商売は厳しいものです。

2010年は過去に無いよつな厳しい環境を迎えると思つて良いと思ひます。

2010年は職員嘱託、パートは関係なく一丸となり鳥取県畜産の取組を理解し、日々の検証を行ない常にレベルの高い業務を行ない構築してそれを実践し絶対に結果を出して、生産者の方、消費者の方に喜ばれる組合として勝ち残つていきませう。

新年明けまして おめでとございませう。

営業部 生協担当マネージャー兼 総務事務管理部マネージャー 山本 幸男

昨年は、景気低迷の中、当組合も販売不振在庫増と大変苦しんだ年となりました。

しかし、本年度は更に厳しい状況が続く見込みです。その中で当組合がどう乗り切るかといつことを考えると、原点に戻つて何をしたら良いかを考え、一つの方向に全員が向かつて行くことと、元氣を出すことだと思ひます。その牽引役として1年間頑張つて行きますので、宜しくお願ひします。

年頭の挨拶

総務事務管理部マネージャー
遊佐琢男

新年あけましておめでとつございませう。昨年を思えばリーマンショックによる不況風から日本の状況はデフレ化した年でもあり、国内では、政権交代と荒波が一気に駆け抜けた年となりました。現状を踏まえ鳥取の農畜産をどのように打開するかが問題かと考え知恵をしばり今後の危機を乗り越えることと思ひ微力ながら努力をいたす所存です。

今年にはトラ年、また、鳥取県畜産農業協同組合(東部畜産農業協同組合)から創立30周年を迎える年、節目の年と考え、組合員役職員一丸となった取組の展開を行いたいと考えております。

300年を迎えられる喜びを皆で分かち合う為に2つの事業の展開を考えております。

1つは記念式典等の事業、2つは県内、県外での記念イベント事業であります。21年8月よりプロジェクトチームを立上げ準備進めています。組合員皆さんの参加、協力もお願いすることがあるかと思ひますが宜しくお願いいたします。

昨年、生産事業部から総務部へ異動し2年目を迎え今年も良い年にする努力と業務に対し、トラのごとくまい進してまいります。

年頭の挨拶

製造部 第1 第3製造マネージャー
三浦 学

新年明けましておめでとつございませう。

昨年末在庫増により、肉の推進を職員、組合員さんにお願ひし、沢山の注文を頂きありがとつございました。

2010年創立30周年、節目の年でもあり、様々なイベントも計画中でありませう。役職員、組合員さんの協力を得ながら盛り上げて行きたいと思ひますので、ご協力お願ひします。

年頭の挨拶

営業部マネージャー

初鹿野 偉一

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

旧年中はひとかたならぬお世話になり誠にありがとつございました。営業部職員一同一層を引き締めて皆様の「ご愛顧」にお応えいたすよう努力いたします。

昨年末は組合員、役職員とも販売に協力していただき誠にありがとつございました。今後とも倍旧のお引き立てをお願ひ申し上げます。

年頭の挨拶

生産事業部マネージャー
井本 節生

新年明けましておめでとつございませう。

昨年度は、多少ではありませうが、乳価の値上げがあつたものの資材、飼料の高値止まり初妊牛価格の高騰、等依然畜産を取り巻く環境は厳しい状況であります。

また、長引く消費不況の下、乳肉製品も同様で消費低迷、低価格競争にさらされておられ、生産現場に影響を及ぼす事態となりかねませう。

生産事業部といたしましては、組合員2丁ズに伝えるべき迅速な動きを心がけ、組合と組合員さんとのつながりを強め組合運営に生かすべき努力を行います。

先が読みにくい平成22年になるかと思ひませうが組合、組合員皆様共により年となりますよう宜しくお願いいたします。

年頭の挨拶

製造部 第2 第4製造マネージャー
森 輝夫

新年あけましておめでとつございませう。

昨年は、第二製造、第四製造、やり残した事が多い1年でした。

2010年度は、昨年の経験を活かし改善していきます。

第二製造課、第四製造課
商品力のアップ

均一した商品と同じレベルで製造できる。

作業効率アップ

近年、同じ体制なので全体で改善を進める、営業部との連携

ロス、コスト改善

原因の究明と改善を行う、全体でのコスト意識を高める。

ISOの取り組み

職員教育、衛生管理の徹底。

各自が責任を持てる商品を、組合員、消費者の皆さんに安心して食べてもらえる商品を心をこめて製造し、店舗、営業が自信を持って販売出来る商品を製造していきます。

新年明けましておめでとござい
ます。

店舗マネージャー 井殿 雅文

旧年中は店舗事業に格別のご高配
を賜りましたこと、厚く御礼申し上
げます。

店舗販売は一昨年からの世界的な
経済不況の影響で、年頭から苦戦を
しましたが、カラーちらしによる新
聞折込広告や、トリチクふれんど
カード会員募集、マイク放送での呼
び込みなど新たな取り組みを行いま
した。その成果として夏以降牛肉の
販売が回復傾向になりましたが、新
型インフルエンザ流行やデフレ浸透か
ら来る消費の縮小が大きく影を落
した一年になりました。

今年には組合設立30周年の記念す
べき年です。お客様があふれ、活気あ
る店をイメージしながら、それを実
現するためにはどうしたら良いのか
をみんなが考え、組合の節目とし
てふさわしい年になるよう職員が一丸
となり取り組みます。

本年も鳥畜店舗をご愛顧くださ
いますようお願い申し上げます。

年頭の挨拶

(株)美歎牧場

社長 長谷川 正

新年を迎え謹んでお喜び申し上
げます。

本年は、新政権のもと本格的に地
球温暖化対策に力を入れ、二酸化炭
素を出さない太陽光・風力など新工
ネルギーにシフトしていく年とな
るでしょう。

また、2010年は寅年であり、
最も運氣が強いといわれる五黄の
寅生まれ（昭和25年）の方が還暦
を迎えられる年でもあります。強い
運氣の世代が節目の年を迎えられ
るわけですから、きつとこの国も新
しい良い変革が訪れるのではない
でしょうか。

本県酪農家にとっても産直がは
じまり牛乳40年、牛肉30年、交
流協会20年の節目の年でもあり
ます。

本年も良い年になるようお願い、組
合員・職員・関係者方々の健康と
益々のご発展をお祈り申し上げます。

年頭の挨拶

(株)東部コントラクター

専務 遠藤 憲明

新年明けましておめでとござい
ます。

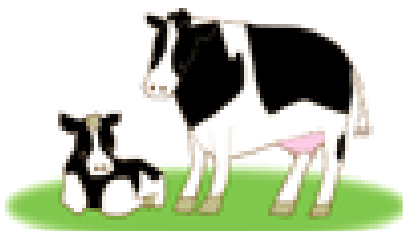
昨年中は、当組合の事業にご協力、
ご指導を頂き誠にありがとうございました。

コントラクター事業として自給粗
飼料の生産という観点から、いろい
ろな課題に取り組んでまいりました。

その中でも、飼料作物の生産につ
いては、収穫機械の整備として細断型
2台と汎用型1台を導入し、飼料稲
の面積は120ha、コンサイー
ジャや飼料用麦の収穫などさまざま
取り組みをしてきました。

今年度は、国の政策が変わる中で
水田を有効に活用していくには、主
食用米はもちろぬ、飼料稲 飼料米・
トウモロコシやソルゴー、飼料麦など
飼料作物を状況等によってはさまざ
まなものに転換しチャレンジしてい
こうと思っております。

そのためには、畜産側 耕種側 あと
行政等の支援のもとコントラクター
組織としても、いろいろ考え、行動を
起こしていきたいと思っております。
ご指導の方よろしくお願いいたしま
す。



12月の主な日程

日付	行事
12月 1日	食肉委員会、夕礼 ISO全体集会、忘年会
12月 2日	総務委員会
12月 11日	若葉台小学校もちつき
12月 14日	理事会 / 忘年会
12月 30日	鳥畜もちつき

1月の主な日程

日付	行事
1月 4日	初詣、夕礼
1月 8日	ISO全体集会、新年会
1月 19日	食肉委員会
1月 20日	生産委員会
1月 21日	総務委員会

※ 2月1日(月)理事会

とりちくの各部署職員

紹介コーナー

組合員皆さんには日頃より当組合の事業にたいして日頃よりご理解、ご協力を賜りありがとうございます。

第3加工の職員を紹介します。

後列右から

山下職員
土居職員

前列右から

西村主任
三浦マネージャー



編集後記

新年あけましておめでとうございませう。本年もよろしく願っています。

12月(昨年)はいつも鳥畜だより(肉のチラシ)をカラー印刷で見やすくし、組合員さんを始め、役職員が一丸となって販売促進に取り組みました。

今回、私個人としては、今までとは違いとても危機感を感じる、いつも以上に販売促進に取り組みました。その結果が、計画以上の販売になったという事で大変うれしく思います。ご協力ありがとうございました。

今回買っていただいた方、贈られた方から、「とりちくのお肉はおいしかったからまたほしい、買いたい」と、リピーターとなってくれることを願って、引き続き1月から3月まで、より一層販売促進をしていきたいと思えます。またご協力をお願いするかと思いますが、よろしくお願いたします。

(ま)

お問い合わせ先

鳥取県畜産農業協同組合

住所:鳥取市若葉台南7丁目2番11号

Tel:0857-52-1129

Fax:0857-52-1131

e-mail:info@torichiku.or.jp

HP:http://www.torichiku.or.jp